

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591500081		
法人名	特定非営利活動法人 熊毛清風会		
事業所名	グループホーム おかでら荘		
所在地	周南市大字樋口262番地1		
自己評価作成日	令和 5年 6月 19日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	令和5年7月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>小学校と隣接していて、窓を開ければ元気な小学生生徒の声、鳥のさえずりが聞こえて来ます。又、近所に幼稚園、少し歩けば烏帽子ヶ岳が一望出来る最高の環境です。第二の我が家として職員、他利用者様と共に笑顔で過ごせるような環境づくりと、地域との交流、参加に力を入れています。幼稚園児、小学生生徒との交流も多くあります。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念や倫理綱領、様々なマニュアルなど働く上での指針となるものを網羅しまとめた管理ファイルを各ユニットに整備しており、職員はいつでも確認できることで根拠を踏まえた支援を実践している。2年前よりタブレットを使用した記録へ移行、研修や職員教育のために動画研修を取り入れるなどICTの先駆的な活用に着手し、職員の資質向上や働きやすさをサポートすると共に利用者へのサービス向上に繋げている。コロナ禍にて活動を制限する中、毎月行事の計画や毎週金曜日はカレーの日として提供するなど楽しみとなる取り組みに努めている。コロナ禍以前では近所の小学校や幼稚園との交流が定着しており、日々子供の元気な姿がみられる生活があり、地域ボランティア、公民館祭りや市民センター祭りへの参加など地域との交流にも意識した活動を展開していた。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]【文字サイズは10ポイントのまま変更しないでください】

自己	外部	項目 (1号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念・倫理綱領、各ユニット玄関内備付ファイルにて周知・共有し、日々の実践につなげている。	開設時からの理念を玄関に掲示し、管理ファイルを各ユニットに整備いつでも確認できることが定着している。理念や倫理綱領には安心と尊厳ある生活、利用者が主体的な決定ができるなど利用者本位の支援、職員がチームとなりサービス向上に努めることを明記し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	令和2年度より、新型コロナウイルス感染症の影響により、幼稚園児、小学生、地域づきあいや、地域行事への参加、地域住民との交流を規制中止した為、日常的な交流は出来なかった。	コロナ禍にて地域との交流やイベント参加は中止していた。以前では幼稚園や小学校との交流や事業所が開催する行事やイベントにフラダンスや日本舞踊、ポップコーンや幸せ会など地域のボランティアの参加があるなど、交流が活発であった。自治会へ毎年おから荘だよりを回覧している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	令和2年度より、新型コロナウイルス感染症の影響により、夏祭り(ソーメン流し)、ボランティアの受入、インターンシップ受入が出来なかった。同自治会の方へ、おから荘だよりを回覧して頂き、当法人の理解と認知症の方への理解に努めた。	/	/
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価の目的と意義を、各ユニット玄関内備付ファイルにて周知し、自己評価を全職員へ配布実施。	評価の目的や意義、外部評価の基本的な考え方の書類を作成している。それにより職員の理解も深まり各自評価を実施している。評価内容も昨年度の実施内容を別枠に掲載し、以前と照らし合わせ振り返る工夫をしている。各自評価を主任会議でまとめ全員で確認し目標を策定している。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、文章開催での実施となった。運営推進会議の場を有意義にする為に、構成メンバーには、法人の全て(定款・理念・倫理綱領・組織・風土等)なんでも聞ける議場としている。会議資料、会議録を各ユニット玄関内備付ファイルにて職員周知・共有しサービス向上に努めている。	コロナ禍にて書面での開催が続いている。メンバーには市役所より市民福祉課や指導監査室、相談員の参加があり、民生委員や地域包括支援センター、地区福祉協議会、ボランティア代表など様々な関係者の参加がある。今年は情勢を鑑み7月から関係者が集まり対面実施を予定している。	資料をもとに書面での開催としていますが、会議の内容を家族に周知できる機会が持てていません。資料や議事録を全家族に送付することで、家族の会議への理解を深めることに繋がります。今年度は情勢を鑑み7月から関係者が集まり対面実施を予定している。

自己	外部	項目 (1号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問に思った事は日頃から地域包括支援センターの方や、市の職員に確認を取り運営している。生活保護の方も受け入れており、生活支援課との連携、調整も行っている。又、質問票にて指導監査室の方とも細目に確認を行っている。	代表と管理者が市役所窓口で直接出向している。介護保険制度上の理解や解釈の確認、コロナ禍での対応も確認を重ねる取り組みに繋げるなど日々関わりを持っている。生活保護受け入れもあり、生活支援課との連携や成年後見人など権利擁護、利用の問い合わせなど協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各ユニット玄関内備付ファイルに、身体的拘束等対応マニュアルを閉じ、誰もが自由に閲覧出来る様にし、身体拘束をしないケアを行っている。年に3回、身体拘束適正化検討会議実施。施設内研修時に報告。年に1回、Ecarelabo動画研修実施。(新入職員最優先研修)	職員担当を決め、3か月毎に身体拘束適正化検討会議を実施している。利用者の日々の様子をタブレットにて随時入力や夜勤ノートで把握に努め、事案があれば朝のミーティングにて話し合いを行う他、マニュアルの確認や動画研修の実施などにて予防に努めている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人格の尊厳とプライバシーの保護関係法令等、高齢者虐待防止マニュアルを各ユニット玄関内備付ファイルにて誰もが自由に閲覧出来る様にし、啓発防止に努めている。年に2回、虐待防止の対策検討会議実施。施設内研修時に報告。年に1回、Ecarelabo動画研修実施。(新入職員最優先研修)		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業と成年後見制度の理解促進の為、各ユニット玄関内備付ファイルにて誰もが自由に閲覧出来る様にしている。成年後見制度利用者 1名、権利擁護利用者 2名 利用中。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、入居契約書を元に十分な説明と納得を得ている。利用者様、ご家族に不利益が被る事の無いよう十分に行っている。退居届出書に、退居されても相談や支援に繋げる事を記載している。		

自己	外部	項目 (1号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関内に意見箱を設置。毎月の主任会議開催時、各主任が意見箱を確認。家族の相談・意向を踏まえた、施設サービス計画書とアセスメント要約表となっていて運営に反映させている。苦情の受付体制を重要事項説明書に明記している。相談・苦情・事故マニュアル完備。	面会時やプラン作成時、衣替えなど衣類を家族に依頼するなど来所時に意見を伺い把握している。コロナ禍も当初から面会はデスク部分で実施をしており、家族との距離感が変わらずに行っていた。利用者とは普段のコミュニケーションを通して希望を把握し食べたいものを提供している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットに主任を配置。毎月の主任会議実施。法人一斉LINE・各主任がLINE等を活用している。各利用者様に担当職員を配置している。担当職員がアセスメント要約表を記入し、モニタリングへ参加し意見や提案を聞く機会を設けている。	各ユニットに主任を配置する人事体系を採用することで職員からの思いや意見が上がりやすく対応が行えている。年2回の面談、通信アプリを使用し状況や思いの把握が適宜なされている。各ユニットに整備している管理ファイルも職員の意見から取り入れられたものである。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則内、キャリアアップ基準書、賃金表完備。自己評価・実勤務評価・資格取得評価・評価者評価による賞与支給を実施。各ユニットに主任を設け、相談窓口となっている。職員が気軽に相談できる様に主任制を設け、朝礼時に管理者が統制を行っている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	基本毎月10日施設内研修実施。又、職員のスキルアップを目的に、Ecarelabo動画研修導入実施。年間研修計画に沿って、全職員働きながら合間で視聴出来る環境を整え実施している。(Ecarelabo教科資料を、働く上での問題解決根拠資料とした。)子育て、在宅介護中でも働ける職場を全職員周知理解している。	管理ファイルを作成し一貫して取り組めるように整えている。毎月職員会議にて施設内研修を実施する他、動画研修導入をしたことで、職員は知りたいことや自分の課題の確認ができ、個々の成長に繋げている。業務に適宜OJTを実施しサポートを行っている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	理事長(代表者)が他法人グループホーム運営推進会議構成委員メンバーとなっている。		

自己	外部	項目 (1号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、管理者(介護支援専門員)と主任が訪問面談し要望・不安の聴き取りを行っている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族による事前見学にて相談・要望等を聞き、不安を解消している。契約の段階で、しっかりと信頼関係の構築に努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っている事の相談、グループホームで行える事、介護保険制度のしくみを説明し、ケアマネージャーと連携をとり速やかに対応している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干し・たたみ、料理の下ごしらえ等、協働して出来る機会を設けている。(基本、毎週金曜日の昼食はカレーで、下ごしらえを行って頂いた。)		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	アセスメント要約表を活用したり、不足の物、衣替え等家族にお願いできる事は、連絡にて協力を得たりと相互支援を心がけている。(基本、かかりつけ医以外の受診は家族に協力を得ている。)		

自己	外部	項目 (1号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昨年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、外出・面会の中止や、短時間少人数面会(1号館テラスにて)を実施した。馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、キーパーソンの方に、元々はどうだったかを随時確認している。	コロナ禍でもテラスにて面会を実施し、家族をはじめ友人や同級生など誰でも会うことができ、年賀状や電話の取り次ぎなど馴染みの方との繋がりが途絶えないよう取り組んでいる。大衆演劇を観に外出支援や、建築に関わったお寺を見に行くなど、個々の馴染みへの対応を行っている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル・ソファ・テレビの位置にて環境の工夫を行ったり、時に利用者同士の関わりを深める為に、職員が間に入り、支え合いの支援に努めている。		
23		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居届出書に、退居されても相談や支援に繋げる事を記載している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎朝の朝礼にて利用者の意向、希望、思い等があれば皆で検討し把握に努めている。日常の会話、表情、動き等から本人の想いをくみとり、気持ちシートとアセスメントを活用し介護計画に盛り組んだ。	朝礼や毎月会議で話すことや、日々の様子や話をタブレットに入力、連絡ノートや日誌を記載し思いや発言を周知している。私の姿と気持ちシートを個々に作成し、3か月毎に更新することで最新の一人ひとりの状況や思いを確認している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	少しでも早く新しい環境に慣れていただく為に、入居前に、フェイスシート、サマリー等で職員間で情報の共有を行っている。気になる事はキーパーソンの方に、元々はどうだったかを随時確認している。		

自己	外部	項目 (1号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活に変化があれば、毎朝の朝礼時に報告・把握・検討している。1日に2回のバイタルチェックを実施。利用者要望を職員が叶える事も多いが、どう家族に携わって頂くかに重点を置いている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が、私の気持ちシート、支援経過(アセスメント要約表)を集約して、モニタリング(ケアカンファレンス)に参加し、家族の要望等踏まえ計画を作成している。介護支援専門員、サービス作成担当者、主任と意見やアイデアを出し合い、介護計画を作成している。	担当職員が私の気持ちシートやアセスメントを作成し、職員が知り得た情報を主任に報告し全体での共有、家族の意見などを踏まえ計画作成者と主任、担当で介護計画を三か月毎に作成している。調理に野菜を切ってもらうことや余暇活動など利用者の特性をプランに反映させている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過を、個人記録・申し送り帳に記載し、情報の共有を行っている。担当職員が、私の気持ちシート、支援経過(アセスメント要約表)を集約して、モニタリング(ケアカンファレンス)に参加している。昨年より、iPadによる記録を完全に移行し職員奮闘中。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看取りまで可能な事を入居前に説明している。法人携帯電話にて、本人・家族の要望に応じ連絡、たまに写真郵送している。個人携帯電話所持者有。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	令和2年度より、新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年も、地域のスーパーへの買物に行けず、ボランティアの受入が出来なかった。民生委員の方が運営推進会議構成委員に含まれている。		

自己	外部	項目 (1号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人かかりつけ医との協力依頼協定書を締結。管理者・主任・服薬関係担当職員にて関係の構築と継続に努めている。当法人かかりつけ医の統一のメリットを説明し、変更を希望されない方は家族対応としている。	利用以前からのかかりつけ医も選択することができ、その場合は受診の協力を家族にお願いしている。協力医により訪問診療をはじめ、随時の往診も可能とした体制がある。協力歯科や専門科へも必要に応じて受診ができ、主治医から紹介状を作成し現状の状態を詳しく伝え対応している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が准看護師の資格を持っており、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は基本家族対応。管理者が病院のケースワーカー、看護師、家族と連絡を密に行い、状況把握に努めている。遠方の家族の場合、家族の役割も行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りまで可能な事を入居前に説明している。重度化、終末期等かかりつけ医との情報共有、家族の要望を踏まえ、状態に応じた緊急時の説明と同意を得て行っている。	看取りの指針などは特別設けてはいないが、利用開始時に家族へ看取りや重度化になった場合の対応やできる内容を説明している。思いを集約し、家族も泊まれるなど関わりを意識した看取りの計画書を作成し実践している。動画研修や看取り後に話し合い振り返っている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハット・事故報告書を活用周知し、事故防止に努めている。Ecarelabo動画にて緊急時の対応、介護現場でのリスクマネジメントに関する研修を行い、3月施設内研時に緊急時対応訓練実施。	各種マニュアルを策定している。主任会議で事故・ヒヤリハットを話し合い朝礼で共有している。コロナ禍前までは消防署に協力を依頼し応急手当などの演習も行っていた。安全対策訓練は研修計画にも組み込み取り組んでいる。8、9月には公用車使用の安全確認を共有している。	

自己	外部	項目 (1号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	6月・10月施設内研修時に、夜間・地震・火災想定避難訓練実施。同自治会で、当法人のご理解と、避難訓練地域住民参加を目的に、おかでら荘便り回覧。地域の協力体制として、地域消防団員有志者との協力依頼書にて体制を築いている。	年2回防災訓練を定期的実施している。大雨や水害など災害を想定し2階への垂直避難訓練もしている。業務継続計画(BCP)も整え体制を整備している。緊急連絡先一覧も事務所に掲示し即座の対応ができるようにしている。備蓄も水を常備しており、食糧も業者との連携を確認し体制を整えている。	防災訓練に夜間での想定した訓練が行われていない現状があります。家事や災害はいつ起こるか分からないことを念頭に置き、夜間想定もふまえた対応力の向上が行われることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本、介護は人目に触れない場所で行うように努め、本人承諾の確認等行っている。個々の状態に応じ、言葉掛けを工夫し、思いや意向の把握に努めた。倫理綱領内記載、各号館玄関据置ファイルに閉じ、誰もが自由に閲覧出来る様にしている。	動画を活用し学習している。ケアの中で扉を閉めるなど基本的な行為やその場の状況を考え人目に触れないような対応など羞恥心やプライバシーに配慮し支援に努めている。声掛けが不適切であれば主任が指導している。職員もお互いに気をつけるよう意識している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話、レクリエーション等を通じ自己決定や希望等を引き出して聞いた。自己の感情が出やすいように、信頼し合える関係作りに努めた。普段の表情や言葉数等ささいな変化を見逃さない声掛けに努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「職員が心のゆとりを持つ」事が、他の人のペースに合わせる事が出来たり、事故防止・チームワーク形成に繋がる事を、周知、念頭において支援している。その人らしい日々の過ごし方を大切に、私情をはさまない支援を意識し支援している。あくまでも計画は計画、無理に1日で完結させる事はないように心がけている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者さんに対する身だしなみへの関心、興味が無くならないよう気を配り、変化に対し褒める声かけを行っている。自ら服を準備して頂いたり、選択の声掛けを行っている。衛生、健康、身だしなみ、季節に応じた洋服、着替えの少ない方は家族に連絡し協力を得ている。		

自己	外部	項目 (1号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週金曜日のカレーにて準備(包丁にて皮むき)を手伝って頂き、毎食後のお盆拭き、テーブル拭き等行って頂いた。秋は干し柿の皮を包丁でむいて頂いた。旬の野菜、山菜を皆さんに紹介し、下ごしらえを手伝っていただき副菜の一品に添えたりしている。	食事には配食を利用している。毎週金曜日にはカレーを作る日と設定し利用者にも定着し馴染みの楽しみとなっている。準備に包丁で皮むきをしてもらうなどできることで活躍の機会となっている。おやつや行事には手作りをしたり、弁当を購入し桜の見物や動物園にも行くなど行っている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝食、夜勤者調理。昼・夜食、配食。個々の状態に合わせた量、形状を提供した、状態に合わせて飲み込みの悪い方には、刻み食、水分にはトロミをつけ、出来るだけ自力で摂取して頂き、残量介助を行っている。水分補給を細目に行っている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	肺炎予防のため、一人ひとりの能力を把握し、毎食後の口腔ケアの声掛け、確認、付添い、補助、介助を行っている。入れ歯の管理、手入れは夜勤者が毎日行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	備付共用トイレは各ユニット2箇所(洋式)有り。個々の能力に応じ、居室にポータブルトイレ使用。排泄後、表に記録しパターンに応じた声かけ・誘導等行っている。オムツ使用簿に記入し、各ユニット主任が確認、管理者へ相談、管理者指示により適時見直しを行っている。	排泄状況をタブレットに入力し、個人の排泄状況の確認やパターンを把握している。一人ひとりに応じ声掛けや誘導を行い、排泄の失敗となる前に対応を意識し支援している。便秘状況はホワイトボードにて職員間で周知している。紙オムツやパッドも適宜見直しや改善に取り組んでいる。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人にあった、お手伝いや体操・レクリエーション・個々の機能訓練にて予防を行い、食事委託業者の選定、相談を行った。水分補給を細目に行っている。下剤服用者は、管理者の指示のもと、使用量、頻度の調整を行っている。		

自己	外部	項目 (1号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本の入浴順番は有るが、本人の意思を確認し、入浴時間・日の変更等行っている。	週に2~3回の入浴を基本とし午後からゆっくりと入れるようにしている。利用者のその時の気持ちに寄り添い無理強いのないように勧めている。入浴剤の使用や音楽をかけたり、近所からもらったゆずにてゆず湯を行うなど、入浴の楽しみに繋げている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、良眠して頂くために日中に適度なレクリエーションを行い、要望に応じ、日中、昼夜逆転にならない範囲(時間)で休息をとっていただいている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬処方箋ファイル設置。お薬手帳、職員が確認できる場所へ保管、左項目を目的に、服薬管理担当者による在庫確認、定期通院を行った。(担当者は毎年度変更)その他、通院は介護職員が実施し、管理者へ報告している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎週金曜日のカレーにて準備(包丁にて皮むき)を手伝って頂き、毎食後のお盆拭き、テーブル拭き等行って頂いた。秋は干し柿の皮を包丁でむいて頂いた。旬の野菜、山菜を皆さんに紹介し、下ごしらえを手伝っていただき副菜の一品に添えたりしている。花壇と畑に苗を植えたり、嗜好品を家族にお願いしたり職員が代替購入した。	食材の皮むきなど調理や片付け、テーブル拭き、行事の準備など個人ができること、得意なことに着目し活かせるようにプランにも位置づけ取り組んでいる。カレーの日や行事などをはじめ、花の水やりや嗜好品が食べられるようになど楽しみが実感できる働きかけが行われている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	令和2年度より、新型コロナウイルス感染症の影響により、計画的な外出活動の実施は出来なかった。利用者選択による敷地内外散歩、紫陽花見学、秋桜見学、芋掘り、畑作りを実施した。	コロナ禍であり計画的な外出や行事活動はできない状況であった。中でも毎週の頻度で敷地内外の散歩を行うことや、紫陽花や秋桜など季節の花を見学に行くこと、芋掘りや畑づくりなど実施している。以前ではドライブにも家族の協力を得ながら行っていた。	

自己	外部	項目 (1号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、お金の所持は認めていない。新型コロナウイルス感染症の影響により、今までの買い物支援が出来なかった。嗜好品を家族にお願いしたり職員が代替購入している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年末にはご家族へ年賀状を書いて頂き、中には携帯電話を自分で持たれている方も居る。不穩時、可能な方は家族に連絡し、会話して頂いた。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱を招くことのないような十分なスペース構造となっている。時には、季節の花を飾り季節感を採りいれている。	1号館と2号館が連結する形で造られており、相互に利用者が行き来できる環境があり、両ユニット一緒にリハビリ体操や活動を行うことをはじめ様々な交流が持てる暮らしに繋がっている。室内は広々とした空間があり、ソファが適所に置かれておりくつろげる環境がある。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの活用、テーブルの分割や席の工夫を行っている。本人要望で、レクルームのインターネット内蔵テレビにてYouTubeを観られる方もいる。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	衣装棚、寝具、写真、TV、馴染のある物、等を持参して頂いている。	ベッドやカーテン、エアコン、簡易衣装ケースが備え付けであり、その他自宅を使い慣れたものなど自由に持参できる。居室入り口に各自の表札を掲示し分かりやすくしている。利用開始時に本人や家族に部屋の様子を聞きながら生活動線にも配慮したそれぞれの居室作りを行っている。	

自己	外部	項目（ 1号館 ）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりがあり、共用空間の位置がわかりやすいように各居室に表札を取り付けている。混合の可能性のあるもの及び、衣装ケースには種類別の名前を記入したり貼っている。利用者の中で自室入口戸を閉める加減が強く、他利用者から苦情が有る為、本人了承の上、戸にスポンジクッション使用。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]【文字サイズは10ポイントのまま変更しないでください】

自己	外部	項目 (2号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念・倫理綱領、各ユニット玄関内備付ファイルにて周知・共有し、日々の実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	令和2年度より、新型コロナウイルス感染症の影響により、幼稚園児童、小学生徒、地域つきあいや、地域行事への参加、地域住民との交流を規制中止した為、日常的な交流は出来なかった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	令和2年度より、新型コロナウイルス感染症の影響により、夏祭り(ソーメン流し)、ボランティアの受入、インターンシップ受入が出来なかった。同自治会の方へ、おかでら荘だよりを回覧して頂き、当法人の理解と認知症の方への理解に努めた。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価の目的と意義を、各ユニット玄関内備付ファイルにて周知し、自己評価を全職員へ配布実施。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、文章開催での実施となった。運営推進会議の場を有意義にする為に、構成メンバーには、法人の全て(定款・理念・倫理綱領・組織・風土等)なんでも聞ける議場としている。会議資料、会議録を各ユニット玄関内備付ファイルにて職員周知・共有しサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目 (2号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問に思った事は日頃から地域包括支援センターの方や、市の職員に確認を取り運営している。生活保護の方も受け入れており、生活支援課との連携、調整も行っている。又、質問票にて指導監査室の方とも細目に確認を行っている。		
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各ユニット玄関内備付ファイルに、身体的拘束等対応マニュアルを閉じ、誰もが自由に閲覧出来る様にし、身体拘束をしないケアを行っている。年に3回、身体拘束適正化検討会議実施。施設内研修時に報告。年に1回、Ecarelabo動画研修実施。(新入職員最優先研修)		
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人格の尊厳とプライバシーの保護関係法令等、高齢者虐待防止マニュアルを各ユニット玄関内備付ファイルにて誰もが自由に閲覧出来る様にし、啓発防止に努めている。年に2回、虐待防止の対策検討会議実施。施設内研修時に報告。年に1回、Ecarelabo動画研修実施。(新入職員最優先研修)		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業と成年後見制度の理解促進の為、各ユニット玄関内備付ファイルにて誰もが自由に閲覧出来る様にしている。成年後見制度利用者 1名、権利擁護利用者 2名 利用中。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、入居契約書を元に十分な説明と納得を得ている。利用者様、ご家族に不利益が被る事の無いよう十分に行えている。退居届出書に、退居されても相談や支援に繋げる事を記載している。		

自己	外部	項目 (2号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関内に意見箱を設置。毎月の主任会議開催時、各主任が意見箱を確認。家族の相談・意向を踏まえた、施設サービス計画書とアセスメント要約表となっていて運営に反映させている。苦情の受付体制を重要事項説明書に明記している。相談・苦情・事故マニュアル完備。		
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットに主任を配置。毎月の主任会議実施。法人一斉LINE・各主任がLINE等を活用している。各利用者様に担当職員を配置している。担当職員がアセスメント要約表を記入し、モニタリングへ参加し意見や提案を聞く機会を設けている。		
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則内、キャリアアップ基準書、賃金表完備。自己評価・実勤務評価・資格取得評価・評価者評価による賞与支給を実施。各ユニットに主任を設け、相談窓口となっている。職員が気軽に相談できる様に主任制を設け、朝礼時に管理者が統制を行っている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	基本毎月10日施設内研修実施。又、職員のスキルアップを目的に、Ecarelabo動画研修導入実施。年間研修計画に沿って、全職員働きながら合間で視聴出来る環境を整え実施している。(Ecarelabo教科資料を、働く上での問題解決根拠資料とした。)子育て、在宅介護中でも働ける職場を全職員周知理解している。		
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	理事長(代表者)が他法人グループホーム運営推進会議構成委員メンバーとなっている。		

自己	外部	項目 (2号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、管理者(介護支援専門員)と主任が訪問面談し要望・不安の聴き取りを行っている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族による事前見学にて相談・要望等を聞き、不安を解消している。契約の段階で、しっかりと信頼関係の構築に努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っている事の相談、グループホームで行える事、介護保険制度のしくみを説明し、ケアマネージャーと連携をとり速やかに対応している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干し・たたみ、料理の下ごしらえ等、協働して出来る機会を設けている。(基本、毎週金曜日の昼食はカレーで、下ごしらえを行って頂いた。)		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	アセスメント要約表を活用したり、不足の物、衣替え等家族にお願いできる事は、連絡にて協力を得たりと相互支援を心がけている。(基本、かかりつけ医以外の受診は家族に協力を得ている。)		

自己	外部	項目 (2号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昨年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、外出・面会の中止や、短時間少人数面会(1号館テラスにて)を実施した。馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、キーパーソンの方に、元々はどうだったかを随時確認している。		
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル・ソファ・テレビの位置にて環境の工夫を行ったり、時に利用者同士の関わりを深める為に、職員が間に入り、支え合いの支援に努めている。		
23		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居届出書に、退居されても相談や支援に繋げる事を記載している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎朝の朝礼にて利用者の意向、希望、思い等があれば皆で検討し把握に努めている。日常の会話、表情、動き等から本人の想いをくみとり、気持ちシートとアセスメントを活用し介護計画に盛り組んだ。		
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	少しでも早く新しい環境に慣れていただく為に、入居前に、フェイスシート、サマリー等で職員間で情報の共有を行っている。気になる事はキーパーソンの方に、元々はどうだったかを随時確認している。		

自己	外部	項目 (2号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活に変化があれば、毎朝の朝礼時に報告・把握・検討している。1日に2回のバイタルチェックを実施。利用者要望を職員が叶える事も多いが、どう家族に携わって頂くかに重点を置いている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が、私の気持ちシート、支援経過(アセスメント要約表)を集約して、モニタリング(ケアカンファレンス)に参加し、家族の要望等踏まえ計画を作成している。介護支援専門員、サービス作成担当者、主任と意見やアイデアを出し合い、介護計画を作成している。		
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過を、個人記録・申し送り帳に記載し、情報の共有を行っている。担当職員が、私の気持ちシート、支援経過(アセスメント要約表)を集約して、モニタリング(ケアカンファレンス)に参加している。昨年より、iPadによる記録を完全に移行し職員奮闘中。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看取りまで可能な事を入居前に説明している。法人携帯電話にて、本人・家族の要望に応じ連絡、たまに写真郵送している。個人携帯電話所持者有。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	令和2年度より、新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年も、地域のスーパーへの買物に行けず、ボランティアの受入が出来なかった。民生委員の方が運営推進会議構成委員に含まれている。		

自己	外部	項目 (2号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人かかりつけ医との協力依頼協定書を締結。管理者・主任・服薬関係担当職員にて関係の構築と継続に努めている。当法人かかりつけ医の統一のメリットを説明し、変更を希望されない方は家族対応としている。		
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が准看護師の資格を持っており、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は基本家族対応。管理者が病院のケースワーカー、看護師、家族と連絡を密に行い、状況把握に努めている。遠方の家族の場合、家族の役割も行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りまで可能な事を入居前に説明している。重度化、終末期等かかりつけ医との情報共有、家族の要望を踏まえ、状態に応じた緊急時の説明と同意を得て行っている。		
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハット・事故報告書を活用周知し、事故防止に努めている。Ecarelabo動画にて緊急時の対応、介護現場でのリスクマネジメントに関する研修を行い、3月施設内研時に緊急時対応訓練実施。		

自己	外部	項目 (2号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	6月・10月施設内研修時に、夜間・地震・火災想定避難訓練実施。同自治会で、当法人のご理解と、避難訓練地域住民参加を目的に、おかでら荘便り回覧。地域の協力体制として、地域消防団員有志者との協力依頼書にて体制を築いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本、介護は人目に触れない場所で行うように努め、本人承諾の確認等行っている。個々の状態に応じ、言葉掛けを工夫し、思いや意向の把握に努めた。倫理綱領内記載、各号館玄関据置ファイルに閉じ、誰もが自由に閲覧出来る様にしている。		
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話、レクリエーション等を通じ自己決定や希望等を引き出して聞いた。自己の感情が出やすいように、信頼し合える関係作りに努めた。普段の表情や言葉数等ささいな変化を見逃さない声掛けに努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「職員が心のゆとりを持つ」事が、他の人のペースに合わせる事が出来たり、事故防止・チームワーク形成に繋がる事を、周知、念頭において支援している。その人らしい日々の過ごし方を大切に、私情をはさまない支援を意識し支援している。あくまでも計画は計画、無理に1日で完結させる事はないように心がけている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者さんに対する身だしなみへの関心、興味が無くならないよう気を配り、変化に対し褒める声かけを行っている。自ら服を準備して頂いたり、選択の声掛けを行っている。衛生、健康、身だしなみ、季節に応じた洋服、着替えの少ない方は家族に連絡し協力を得ている。		

自己	外部	項目 (2号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週金曜日のカレーにて準備(包丁にて皮むき)を手伝って頂き、毎食後のお盆拭き、テーブル拭き等行って頂いた。秋は干し柿の皮を包丁でむいて頂いた。旬の野菜、山菜を皆さんに紹介し、下ごしらえを手伝っていただき副菜の一品に添えたりしている。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝食、夜勤者調理。昼・夜食、配食。個々の状態に合わせた量、形状を提供した、状態に合わせて飲み込みの悪い方には、刻み食、水分にはトロミをつけ、出来るだけ自力で摂取して頂き、残量介助を行っている。水分補給を細目に行っている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	肺炎予防のため、一人ひとりの能力を把握し、毎食後の口腔ケアの声掛け、確認、付添い、補助、介助を行っている。入れ歯の管理、手入れは夜勤者が毎日行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	備付共用トイレは各ユニット2箇所(洋式)有り。個々の能力に応じ、居室にポータブルトイレ使用。排泄後、表に記録しパターンに応じた声かけ・誘導等行っている。オムツ使用簿に記入し、各ユニット主任が確認、管理者へ相談、管理者指示により適時見直しを行っている。		
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人にあった、お手伝いや体操・レクリエーション・個々の機能訓練にて予防を行い、食事委託業者の選定、相談を行った。水分補給を細目に行っている。下剤服用者は、管理者の指示のもと、使用量、頻度の調整を行っている。		

自己	外部	項目 (2号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本の入浴順番は有るが、本人の意思を確認し、入浴時間・日の変更等行っている。		
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、良眠して頂くために日中に適度なレクリエーションを行い、要望に応じ、日中、昼夜逆転にならない範囲(時間)で休息をとっていただいている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬処方箋ファイル設置。お薬手帳、職員が確認できる場所へ保管、左項目を目的に、服薬管理担当者による在庫確認、定期通院を行った。(担当者は毎年度変更)その他、通院は介護職員が実施し、管理者へ報告している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎週金曜日のカレーにて準備(包丁にて皮むき)を手伝って頂き、毎食後のお盆拭き、テーブル拭き等行って頂いた。秋は干し柿の皮を包丁でむいで頂いた。旬の野菜、山菜を皆さんに紹介し、下ごしらえを手伝っていただき副菜の一品に添えたりしている。花壇と畑に苗を植えたり、嗜好品を家族にお願いしたり職員が代替購入した。		
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	令和2年度より、新型コロナウイルス感染症の影響により、計画的な外出活動の実施は出来なかった。利用者選択による敷地内外散歩、紫陽花見学、秋桜見学、芋掘り、畑作りを実施した。		

自己	外部	項目 (2号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、お金の所持は認めていない。新型コロナウイルス感染症の影響により、今までの買い物支援が出来なかった。嗜好品を家族にお願いしたり職員が代替購入している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年末にはご家族へ年賀状を書いて頂き、中には携帯電話を自分で持たれている方も居る。不穩時、可能な方は家族に連絡し、会話して頂いた。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱を招くことの無いような十分なスペース構造となっている。時には、季節の花を飾り季節感を採りいれている。		
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの活用、テーブルの分割や席の工夫を行っている。本人要望で、レクルームのインターネット内蔵テレビにてYouTubeを観られる方もいる。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	衣装棚、寝具、写真、TV、馴染のある物、等を持参して頂いている。		

自己	外部	項目（ 2号館 ）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりがあり、共用空間の位置がわかりやすいように各居室に表札を取り付けている。混合の可能性のあるもの及び、衣装ケースには種類別の名前を記入したり貼っている。利用者の中で自室入口戸を閉める加減が強く、他利用者から苦情が有る為、本人了承の上、戸にスポンジクッション使用。		

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名

グループホーム おかでら荘

作成日

令和 5年 8月 17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	○運営推進会議を活かした取り組み資料をもとに書面での開催していますが、会議の内容を家族に周知できる機会が持っていない。	家族の会議への理解を深める為、提案や意見が得られる促しを行う。	運営推進会議資料、会議録を全家族へ郵送。	2年
2	36	○災害対策 防災訓練に夜間での想定した訓練が行われていない現状がある。	火事や災害はいつ起こるか分からないことを念頭に置き、訓練にて対応力の向上に努める。	避難訓練年2回何れも、夜間想定で実施。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。